

## 平成 29 年度 第 1 回羽島市男女共同参画懇話会会議録

日 時	平成 29 年 7 月 18 日 (火) 午後 2 時 00 分～3 時 30 分
場 所	本庁舎 4 階 第一会議室
出席者	<p>(委員)</p> <p>梅津美香会長、長島清司副会長、前田京子委員、山田小百合委員、後藤聖子委員、南谷東子委員、高原達夫委員、平古直樹委員、南谷芳子委員</p> <p>(事務局)</p> <p>松井市長、古川企画部長、北垣企画部次長兼市民協働課長、藤井同課長補佐、上野同課係長、市川同課主事、三輪職員課長、加藤危機管理課長</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 配布資料の確認</p> <p>4 副会長の選出</p> <p>5 会長あいさつ</p> <p>6 議題</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 男女共同参画に関する女性の登用状況について</p> <p>—事務局より資料に基づき説明—</p> <p>(会 長)</p> <p>事務局から説明のありました女性の登用率について、皆様の思われる事などあれば、ご意見をいただきたい。</p> <p>(委 員)</p> <p>個人の意見で申し訳ないが、分野によってはまだまだ取組みが難しい中、羽島市としての取組みは素晴らしいと率直に思った。</p> <p>(委 員)</p> <p>平成 29 年度に、5 名が退職されたというお話から、前年度に管理職になられた方は一年で定年を迎えてしまうので、もう少し活躍できるような年数を長くしてもらえればと思う。</p> <p>(委 員)</p> <p>保健師の方の採用について、30 歳から 40 歳ぐらいの方は子育ての経験を積まれており、新卒の方より適切なアドバイス等ができることから、羽島市の採用制度の取組みは良いと感じた。</p> <p>(委 員)</p> <p>現在、課長補佐級にあたる女性職員の年代はどれぐらいか。</p> <p>(市 長)</p> <p>市長就任当時、市役所には 50 代の高校卒業の女性職員に係長職はほとんどいないという状況であった。このような状況から、一気に課長職までもっていくことは難しい。正確な人事考査を行いながら、能力のある方には課長職をお願いするという事で平</p>

成 28 年度に登用が集中した。このように適正に取り組んできた結果であるので、正確なご認識をお願いしたい。また、男女性差のない勤務評定の実施をしており、30 代半ばから係長となり、50 代あたりから管理職になるような流れとなる。現在は、それよりも早いペースではあるが 40 代後半の女性管理職が増えている。また、定年退職をされた女性職員については、本人の希望があり、勤務成績が通常以上の職員については、市の業務を継続的にサポートしていただくために再雇用をしている状況である。

(委 員)

過去の管理職に占める女性の割合が低すぎたということで、急に変えることは難しいと思う。一方で、そこまでの責任を負って管理職を担いたくないという話はないのか。

(市 長)

登用の際には個人の意思は尊重しますが、男性、女性共にそのような意見はある。サポートができるよう、臨床心理等の専門資格を持つ職員を担当課に配置している。

(委 員)

短時間労働での常勤雇用を検討中とのお話があり、素晴らしい考え方だと思う。教職員については、残業がとても多く、育児休業からの復職等の障害となることが考えられる。市としての残業に対する取組み状況は。

(市 長)

残業時間の 30 時間、50 時間という制約の中で、残業を継続的に実施している課には常時ヒアリングを実施している。一昨年の時間外手当の補正予算要求を受けて、抜本的な改革を指示し、この 2 年で 3 割程度減らすことができた。現在では、一般行政職で月に 50 時間を超える危険水準となる部署は、繁忙期を除けばほとんどない。病院関係では、病院医師についても的確なる休憩又は休みを取るように院長より指導を行っている。当市では、終礼を徹底することで課員の意識統一を図り、残業時間の減少に努めている。また、簡易な作業であれば主務以外の仕事を課内で分担して行うようにしている。

(委 員)

一律に 30% という数値を当てはめるのではなく、適材適所という考えも必要である。市役所でも、部署によっては男性が主になる所もあるのではないかと。また、市役所の取組みが、一般企業にどの程度浸透していくかが重要で、一般企業だと市役所のような取組が難しいこともあると思うがそういった関係は把握してみえるのか。

(市 長)

審議会の女性登用率 3 割に関する話については、審議会の性質上難しいものもある。一方で、老人クラブや自治会長さんを始めとする役員の方に、わずかではあるが女性の登用が進みつつあることは一つの方案であると考えている。一般行政職員の女性職員の割合は 3 割程度ですが、本来は 5 割に近い形が理想である。市役所の業務では、夜間徴収がある部署については、安全面を考慮すると女性職員ではリスクが高い。税務課

の家屋評価については、女性と男性の割合は1：1であり、業務内容による性差のない人員配置となっている。また羽島市では、製造業より飲食・サービス業が増えてきており、従業員の構成からみると小規模零細企業が増えている現状である。ここで私がお約束できるわけではありませんが、子育て関係に門戸を開いていただける事業所については、それなりのプライオリティーを市として考えるべき時期に来ている。例えば、表彰制度や、保育所の整備について補助をするといったことである。そのようなことをやらないと、民間企業への波及は難しいので前向きに検討していきたいと考えている。女性消防団につきましては、現在15人で火災予防の啓発活動をしていただいています。一般消防職員につきましても、女性を雇用すべきという国の方針が示されつつあるので、プライバシー保護等の施設整備も含めまして門戸を開く必要性があると考えている。

(委員)

校長及び教頭の女性の数は、小中校長は13人中2人、小学校の教頭は11人中6人、中学校の教頭は5人中1人となっており、県下でみても登用が増えてきている。以前と比較すると、女性の活躍しやすい環境になってきていると感じる。その背景には育児休業の制度の定着がある。一方で、部分休業や育児短時間勤務は制度的には認められているが、学級担任を任せることができない等実情として活用していくことは難しい面もある。女性の活躍を支えていく制度について、既存の制度を補うような制度やより機能していくような改善をこれからも図っていくことが大切だと感じている。もう一つの影響として考えられるのは、女性の意識の変化である。これまでは、管理職になりたくないというよりは、なれないだろうと考える方が多かったように感じる。意識改善の要因として、勤務評価方法の変更があり、面談をしながら評価を行うことで性差のない評価方法となっている。また、子ども達にはキャリア教育を行っていき、小さい頃から性差のない社会にしていくという意識付けも必要であると感じている。

(委員)

懇話会のメンバーとなった最初の頃は、女性の管理職に占める割合が少なく、女性自身に管理職として働くイメージがない方もおり、登用がなかなか進んでいかないという話があった。毎年の取組みを積み重ねていくことで、女性職員に管理職として働く意識が醸成され、男性職員もそれが自然の形になっていくのではないかと感じている。これからも継続して取り組んでいただきたい。

## 2 災害時における女性の視点を取り入れた避難所運営について

—事務局より資料に基づき説明—

(会長)

羽島市では、県の避難所運営ガイドラインの改訂を受け、今年度にマニュアルの改訂に着手されるとのこと。男女共同参画の視点から、委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただきたい。

(委員)

避難所の管理責任者は誰が決めて、どのような方が責任者となるのか。

(事務局)

運営責任者は自治会長さんや区の役員の方に担っていただき、避難所の運営をお任せする。是非女性の方に区の役員を担っていただき、運営協議の中に加わっていただきたい。

(委員)

避難所までは、自治会よりさらに細かいブロックごとに助け合って避難を行うよう役が割り振られている。実際のことを考えると、避難所まで細かいブロックで連絡を取りながら動くことは難しいのでは。「広報はしま」が聞き取れないこともある。

(事務局)

「広報はしま」の件は、放送内容が確認できるフリーダイヤルやスマートフォンでの防災アプリを導入しているため、市民の皆さまへの周知に努めたい。災害時の助け合いについては、正木町新井地区では、地域で「白いタオル運動（災害を想定し、元気な方は玄関先に白いタオルをたらすというもの）」を実施することで地域で防災意識を高めている。このように、普段のコミュニティを日常化されて、町単位での訓練を実施することは、万が一の際の対応には非常に有効ではないかと考える。また、地域で活躍していただく防災コーディネーター講座を実施しており、コーディネーターの方々が団結し地域の行事の中に防災訓練の要素を取り入れている地域もあり、発展をみせているところ。今後も市では特色ある取り組みや、先進事例等を紹介しながら少しでも皆さまに日ごろから認識をお持ちいただけるように進めていきたい。

(市長)

発災時、72 時間以内の明確な体制の構築は、市の地域派遣職員がきちりとしたコーディネートをしないと難しい。普段から自治会と民生委員会やボランティア団体がどれだけ情報の共有をしているかが重要。自治会長の半数以上が一年交代であるため、地域のコーディネートをお願いすることはなかなか難しい。そこで市では、防災コーディネーター養成講座の実施による、避難所訓練のエキスパートの養成を行い、地域の防災組織に入っただけ活動をしている。しかし、女性の割合が少ないことや地域によって受講者数に差があり、意欲の平準化が課題である。担当課だけでなく、様々な機会において防災に関する情報発信を行い、意識の醸成に努めていかなければならない中で、男女共同参画の場でも意識を高めていただきたく取り上げたところである。竹鼻南地区は、一時避難所と大型避難所の2段階という理想的な地域防災計画を立てていただいております、上手く機能するのではと考えている。行政としては、今年度より大型避難所のトイレの洋式化拡充のための予算化を進めている。体育館だけではなく、個別教室も利用しながらプライバシーの確保等を行っていくような計画で三年程度の時間をかけながら取り組んでいく。地域の防災の担い手は自分たちでという考えを、市内 113 の全ての自治会が持っていただかないと事は前に進まないと考える。

(委員)

今の市長のお話から、防災コーディネーターを増やしていくことが、現実的な取組みであると思う。女性の参加がまだまだ少ないということですので、そのあたりでのご意見やアイデアがあればお願いしたい。

(委員)

講座は平日に行われているのですか。

(市長)

企業が協力事業所となっていた関係で、昨年だけ特例で平日に実施をした。今年度は休日に実施する。

(委員)

参加資格は設けられていますか。

(市長)

特にございません。今年から中高生で三名ほど、防災コーディネーターとなりました。

(委員)

学校に周知をしていくと良いのではないかと。いざという時に動けるのは中学生や高校生であるとニュースで目にするので、育てていけるとよいのではないかと。

(市長)

教育委員会より子ども会やPTAの方へ周知をしていただけるとありがたい。

(委員)

関係者も被災する恐れがある中、区長さんが責任者の役割を担って動くことができない場合もある。全員がある程度理解をして、フォローをできるような訓練や体制づくりが必要ではないかと。

(市長)

大きな災害があると意識が高まりますが、意識が麻痺してくると意欲が下がってしまうこともある。会合の折に、メインテーマとは別に20分程度防災の話を取り入れるなど、常時の意識付けを行っていくことが必要ではないかと。

(委員)

防災コーディネーターの開催が、毎週日曜日で主婦としてはなかなか参加が難しい。日曜日開催では女性は家を出づらいため、平日との組み合わせや、時間帯等の検討をしていただけたら。また避難所運営について、毎年自治会の役員が交代されることから、自治会ごとにマニュアル化し、役員でなくても自主的に動けるように事前に皆さんに周知しておくのはどうか。市が主催の防災訓練は、各自治会の役員の方しか参加をされず、割り当てられた訓練をただこなすだけで、他にもっと有効な手段はないでしょうか。

(市長)

防災研究会というものを防災コーディネーターの有志の方々で行っている。各小中学校に女性も含めてメンバーとして入っており、既に避難所のレイアウトの関係の研究

を始めている段階である。来年度の講座の日程については、短期間で受講されたいという方もみえるため、Aコース・Bコースというように受講スケジュールに余裕を持たせたもの等のコース分けを検討したい。また、防災訓練の内容が希薄であるというご意見ですが、大きな訓練として教室にてHUG訓練（避難所運営訓練）を2時間かけて行っている。総合防災訓練以外でも避難所運営訓練を実施するなど実施頻度を高めていき、地域で展開していけるようにしていきたい。

（委員）

竹鼻小学校ですと、昨年10月より避難所運営懇話会を自治委員の方を中心に組織し毎月1回協議を行っている。学校の図面を見ながら、具体的な状況を想定して学校避難所の運営についてマニュアル化をし、発信をしていくという方向で活動していただいている。運営懇話会でHUG訓練を行った際には、より具体的な状況を想定することができ、女性が組織に入ることが必要ではないかという意見が出てきた。また、個人の意見ですが、女性は世代によって状況が異なることが多いので、様々な世代の女性の方に組織に入っていただくことも必要ではないかと感じている。大規模な訓練はなかなか実施できないので、HUG訓練を積み重ねていくことで具体的に状況を想定しながら備えをすることが重要であると思う。地元に残っている中学生が災害発生時には一番動けて力もある。地元の防災訓練にボランティアとして、多くの中学生が参加していることはとても良いことであるので、今後も中学生に対して意識の醸成に努めていきたい。

7 閉会